

1 幼児期における 環境学習について

なぜ今環境学習が必要なのでしょうか。

現在、私たちは当たり前のように便利で豊かな生活を送っています。しかし、豊かな日常生活を送るために、地球上の多くの天然資源やエネルギーを消費した結果、様々な生活型公害（水質汚濁・廃棄物問題など）だけでなく、自然環境の破壊や地球温暖化など地球規模の環境問題を引き起こしてきました。

こうした問題を解決するためには、常に環境のことを考えた生活行動を心がけ、環境保全活動が実践できる人を育てるという「人づくり」を推進し、社会構造を環境に配慮したものへ転換することが重要です。環境学習とは、人と自然（環境）とのかかわりを理解し認識するだけでなく、体験を通して習得した知恵や感性を活用して環境問題の解決に向けて行動できる「人づくり」を行うものであり、環境問題が深刻化している今こそ、このような「人づくり」が求められているのです。

環境学習では、幼児から高齢者までのあらゆるライフステージにおいて、それぞれの発達段階や年代に応じた取組が行われています。中でも、体験を通して得た知恵や感性が必要とされる環境学習では、幼児期の活動が特に重要になります。幼児期は、五感で世界を理解する時期であり、実体験を通して、自然を感性で理解する時期でもあります。恵み豊かな自然に直接ふれあうなど実体験を通して、自然の持つ美しさ、不思議さ、神秘さに目をみはる感性（センス・オブ・ワンダー）を育み、他者（自然や人間）に共感する豊かな感性と想像力を身につけることが、次のステップへの原動力となるのです。

また、幼児期は基本的な生活習慣を確立し、道徳観の基礎を養う時期でもあることから、この時期に環境に配慮した生活の仕方やマナーを、生活・体験の中で身につけることも大切です。このような実体験を通して見識が豊かになり、問題解決への意欲や積極的に実践する行動力を身につけることができます。

このように、非常に重要な幼児期の環境学習を実りあるものにするためには、養育に携わる人（保育者）自身が、環境への意識を高め、日々の生活の中で命の輝きに気付く感性を磨く努力が必要です。保育現場においても環境学習的な視点を取り入れ、子どもたちと一緒に、楽しく自然体験・生活体験を推進していきましょう。

（参考：宮崎県環境学習基本指針～人と自然の共生する地域環境を担う人づくり～）

